

れたあとは縄状の窪地をひたすら稜線に向けて歩くだけとなった。10:45ヤブの中でほぼ稜線に立ち、現在地を確認して登ってきた沢を下降する。

[タイム] 出合(7:55)→左俣出合(8:15)→左沢出合(9:00)→稜線(10:45)

### 香屋川支流口の沢(仮称)左俣 1990年7月29日

7:55右俣を遡行予定の橋内・鈴木パーティと一緒に遡行開始。出合は暗く先に期待をもたせたが、平凡なままで二俣。ここで橋内・鈴木パーティと別れる。二俣には右俣から押し出されてきた土砂と流木が堆積していた。

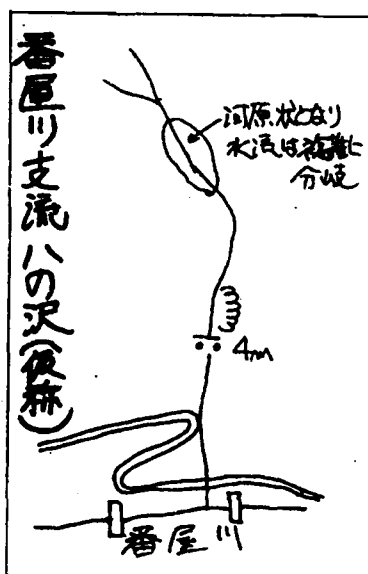
左俣は20分程で水がなくなり、平凡なままでヤブの中の窪みにすぎなくなってしまった。8:40遡行終了とし、右岸斜面を登って稜線を目指す。稜線までは1時間30分余。伐採後の猛烈なヤブこぎとなった。

[タイム] 遡行開始(7:55)→二俣(8:15)→遡行終了(8:40)→尾根(10:15)

### 香屋川支流ハの沢(仮称) 1990年7月29日

L

尾根上で小休止のあとハの沢(仮称)めざし下降開始。伐採後の猛烈なヤブをこ



ぎながら急斜面を下る。50分の下りで沢に出る。降り立った所は広い河原状となり、冷たい流れが複雑に分岐しながら流れていた。前日林道からこの沢を偵察した宍戸君の話では、林道から見える位置に10m程の滝があるという。遡行してきた沢の平凡さ、そのあとのヤブこぎの苦勞を補ってくれる滝を期待して下降を開始する。

広い河原を過ぎると沢は急に暗くなり、傾斜を増す。そして左岸に岸壁が現われる。滝はまだかと先を急ぐ。やがて大岩が重なりあって4m程の落差をつくり、その先に待望の滝である。しかし、落差は4m程。宍戸君の言っていた10mの滝とは

落差に大きな違いがある。しかし、もう林道が見えてきており、他に滝がかかっている様子もない。どうやら上流の大岩部分が合わさって林道からは1つの滝のように見えたもののようである。そう考えれば10mの落差も納得がゆく。右岸のゴロ帯をたどって簡単に下ってしまった。そのあとすぐ林道に出る。下降終了11:45。 (記

[タイム] 尾根(10:15)→沢(11:05)→林道(11:45)

## 那須の沢

那須・御沢 (隠居倉沢) 1990年7月21~22日

7月21日 快晴。 つくば(13:30)⇒幕営地(17:30)

三斗小屋宿へ向かう林道は荒れていて、とても奥まで車を取り入れる気にはならない。大沢出合の先で林道が右岸に移ったすぐ先の広場まで入り込み、テントを張って眠り、翌日の遠行に備える。

7月22日 快晴。 幕営地(5:15)→湯川出合(5:30)→御沢出合(6:05)→二俣(7:40)→登山道(8:20)→登山道(9:10)→剣ヶ峰(9:55)→朝日岳(10:35)→隠居倉(11:15, 11:35)→三斗小屋温泉(12:00)→三斗小屋宿(12:50)→幕営地(13:30)

早朝より行動開始。三斗小屋宿と沼原を結ぶ登山道が湯川を渡る所から沢に入る。30分程遠行し、左岸に側壁が現われ右にカーブしたところが御沢出合である。御沢の水は少し酸っぱく、沢床の石は赤っぽい。一方これまで遠行してきた湯川の石には、御沢との合流点より下流部だけ白っぽい沈着物が着いている。御沢の水が湯川の水と混ざりあうことによって、何か化学反応が起こるみたいである。